

放射性セシウムについて

5年前の3・11原発過酷事故以来、原因不明の症状を訴える多くの方に、バイディジタルOリングテストにより、放射性セシウムに対するアレルギー反応が存在すること、食物を除染して食べるようにすると、約2週間で症状は軽快していく事、また、注意し続けると少々の汚染に耐えられるようになること、つまり耐性ができることを明らかにしてきました。また何度も再発する方は、汚染の強い物を時々食べている事が明らかになりました。汚染の程度の軽い物を毎日食べていて耐性ができる方と再発する方がいることもわかってきました。時には、安心しきって、除染しなかった食物が汚染源であって症状が続いていたりすることもありました。

四国の27年度産の無農薬有機米から放射性セシウムが検出されたり、静岡県が無農薬茶から今年度産も3 Bq/kg (ゲルマニウム半導体による) 検出されたり、福島県のさつま芋が全く不検出であったりと、産地や食品によって、見当をつけることが困難になってきているように思います。多くの人々が忘れ始めた原発過酷事故の被害はアレルギー反応のみならず現地の甲状腺がん多発の報告に見られるように、これから本格的に被害が広がっていくと思われます。

アレルギーに関しては専門家からも、あなたが言うアレルギーはセシウムに対する金属アレルギーではないのか、とか、放射性セシウムが崩壊してバリウムになるため、バリウムアレルギーの反応ではないのか、とかの疑問が出されていました。

そこは当然明らかにしなければならぬ事なので、放射線技師の方に協力をお願いし、純度、99.9%の炭酸セシウムを入手し、放射性セシウム検査用の茶葉のそれぞれのセシウム金属原子数を計算してもらい、同じ量のセシウム金属原子数の入った炭酸セシウム検体作り同時にOリングテストを行いました。バリウムについては、微量の硫酸バリウムを使って、バリウムアレルギーかどうかを調べました。

結果、放射性セシウムにアレルギー反応を起こす方は、どの濃度のセシウム金属にも放射性でなければ、アレルギー反応は起こさないこと、バリウムにもアレルギー反応は起こさないことが明らかになりました。金属に対するアレルギーではなく、その金属が放射性を持った時に、人の体はアレルギー反応を起こし、つまり排除すべき危険なものとして認識して反応しているのです。

私たちの体は何と精妙で賢いのでしょうか。そしてまた、耐性を得るとはどのような仕組みなのでしょう。カリウム40に対する様に、新しい放射性物質に対しても、初めから何の反応もせず対応できている人の体には、どんな秘密があるのでしょうか。いろいろと考えさせられます。

鈴木富美